

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

第 2 部 病院会計制度概論

第 8 章 損益計算書の様式

8-3 段階別利益表示

損益計算書は、その活動の内容や発生頻度によって 3 つの区分に分けて表示した。その際、各区分において利益が計算されるため、いくつかの利益概念が出てきたことになる。病院の損益計算書の構造を簡単に要約すると次のようになる（各利益は、損失の場合もあるが、ここでは利益のみを取り上げる。）

病院の損益計算書の構造（要約）

I. 医業収益	× × ×
II. 医業費用	× × ×
<u>医業利益</u>	× × ×
III. 医業外収益	× × ×
IV. 医業外費用	× × ×
<u>経常利益</u>	× × ×
V. 臨時収益	× × ×
VI. 臨時費用	× × ×
<u>税引前当期純利益</u>	× × ×
<u>法人税、住民税及び事業税負担額</u>	× × ×
<u>当期純利益</u>	× × ×

このように、損益計算書では、最終的な当期の運営状況である当期純利益を計算するまでに、区分された内容によって段階的にいくつかの利益を計算していく。この段階的利益表示は、区分表示と並んで損益計算書の重要な特徴となっている。

病院の利害関係者は、病院の当期の運営状況に関心を持っているが、より細かい分析をおこなうためには、はたしてどのような活動から収益をあげているのか、あるいは非効率な活動はどこなのかなどといった点をより細かく分析する必要がある。そのため、まず病院経営のいわゆる本業である医業サービスの提供という活動をみるために、医業利益が計算される。

<続く>

(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

令和 2 年度 健康保険組合決算見込集計結果

健康保険組合連合会（健保連）が発表した昨年度（2020 年度）の「健保組合決算見込み」から明らかになりました。2020 年度は、新型コロナウイルスの影響により、外来患者の受診抑制、予定入院の延期などがあり、その結果、医療費が減少しました。健康保険組合全体では 2,952 億円の黒字決算となり、これは 7 年連続の黒字となります。一方で高齢化の影響により、高齢者拠出金が増加 (3.2%) し、新型コロナウイルスの影響により、保険料収入も減少しましたが、その減少幅以上に受診抑制の影響額が大きかったことが黒字になった要因と考えられます。

□健保連の結果分析

- ① 保険料収入のうち、新型コロナ特例猶予等による未収額は 96 組合で総額 273 億円。
- ② 赤字組合は全体の 3 分の 1 にあたる 458 組合 (33.0%) で、令和元年度と同程度。
- ③ 赤字組合のうち、30 組合で特例猶予等による未収があり、総額は 206 億円で、未収額全体の約 8 割 (75.5%) を占める。
- ④ 新型コロナ感染拡大下における受診控え等もあり、保険給付費は前年度比 2,113 億円減 (▲5.1%) の 3 兆 9,065 億円。
- ⑤ 高齢者拠出金は前年度比 1,113 億円 (3.2%) 増の 3 兆 5,457 億円、うち前期高齢者納付金は伸びが著しく、前年度比 840 億円 (5.8%) 増の 1 兆 5,390 億円。
- ⑥ 新型コロナ感染拡大の影響等により、保健事業費は前年度比 181 億円減 (▲5.0%) の 3,450 億円。
- ⑦ 平均標準報酬月額 ▲0.5%、平均標準賞与額は ▲4.2%。
- ⑧ 平均保険料率は 9.21% であり、令和元年度 (9.22%) と同程度。
- ⑨ 介護保険料率は 0.1% 増の 1.7%。料率を引き上げた組合は全体の 4 割以上

医療保険制度は「社会連帯」に基づく制度です。負担能力のある若い人が負担能力の小さな高齢者を支える構造は、「当然」のことです。しかし、「収入の過半を加入者以外の医療費に充てなければならない」事態があまりに長期間続けば、「社会連帯」という医療保険制度の基盤が崩れていく可能性も考えられます。